

西条盆地（広島県）のミズニラの生育地

下田路子
 (広島大学理学部)

広島県の稀少種の一つであるミズニラを、1987年に西条盆地の小さな池（図1のNo.1）で確認した（下田1987）が、翌年（1988）に、この池と隣接する池（図1のNo.2）にも、ミズニラが大量に生育しているのを確認したので報告しておく。

No.2の池では、ミズニラは東岸の長さ約5m、幅約50cmの範囲に、ミズユキノシタと混生していた（図2）。ミズニラとミズユキノシタの生育地は緩やかな斜面で、池の水位の変動により水から出たり沈んだりする部分である。調査した5月31日には生育地の下半分は水に付いていた。池の水は澄んでおり、フトヒルムシロが池一面に繁茂し、タヌキモ類の一種（おそらくイヌタヌキモ）やフラスコモ類も生育していた。池はアカマツ林に囲まれていたが、西側の山の一部分が削られていたので気掛りであった。

今年（1989年）の8月3日に、再びミズニラの生育状態を見に行った。No.1の池はこれまでと変わりなく、ミズニラも浅い水中にまばらに生育していた。

ところがNo.2の池に行ってみると、池の上まで造成工事が広がり、ブルドーザーが作業中であった。池の西岸はコンクリートになり、水は白っぽく濁り、フトヒルムシロの浮葉は枯れたものが多かった。池の東岸にはミズユキノシタが密生していたが、前年にあれほど多かったミズニラは非常にまばらで、しかも外側の葉が枯れてしまったものが多かった。この池でミズニラが再び大量に生育することは、おそらく無いであろう。

昨年はミズニラの新しい生育地を見つけて大変うれしく思ったのであるが、今年は一転して無念な思いである。農村で長い間保たれてきた溜池の生態系が、最近の西条盆地の都市化とともに崩れてゆきつつある。ミズニラの生育地の変化も、その一例に過ぎない。

文 献

下田路子．1987．西条盆地で新たに確認した水草2種：ミズニラとオオフサモ．水草研究会報 30：12．

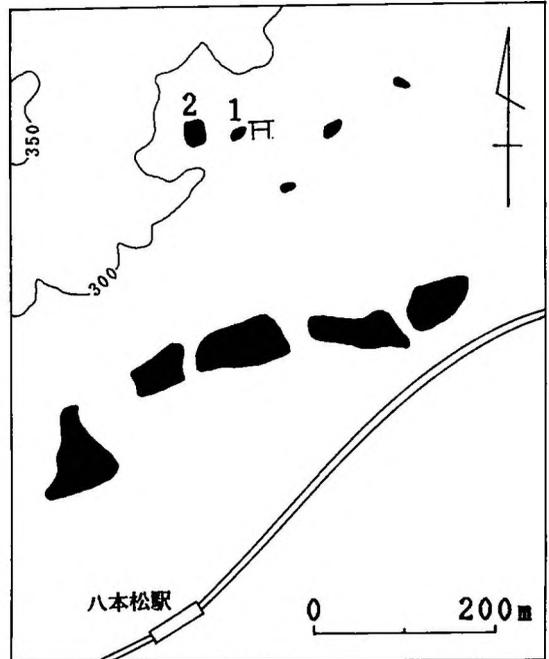


図1 東広島市八本松町のミズニラの生育地



図2 水辺に生育するミズニラとミズユキノシタ
 (1988年5月31日 図1のNo.2の池)